



Journal of Cardiology Cases Editor-in-Chief 就任のご挨拶

伊藤 浩

Hiroshi ITO, MD, FJCC

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科循環器内科学

このたび Journal of Cardiology Cases (JC Cases) の編集委員長を拝命しました岡山大学の伊藤浩です。前任の鄭忠和先生（現日本心臓病学会理事長）が発刊し、手塩にかけて育ててきた症例報告に特化したオンラインジャーナルという独創的な英文誌の編集長になって、身の引きしまる思いです。JC Cases の発刊は2008年に遡ります。日本心臓病学会誌を母体とした英文誌を作る際に、症例報告をどうするかということが議論になりました。日本心臓病学会誌の中でも症例報告は人気があり、会誌の特徴とも言えるものでした。しかしながら、雑誌は学术论文を主体とするものであり、症例報告が多く含まれるのは好ましくないという問題もありました。最終的には、学术论文主体の Journal of Cardiology (JC) と症例報告に特化した JC Cases に分けてスタートしました。

診療を流れ作業のようにこなしているだけでは、臨床は進歩しません。臨床の基本は一例一例の病態をしっかりと把握して、最適の治療を行うことです。それを繰り返して経験を重ねていくことが、一流の臨床医になる唯一の方法です。ただし、個人の経験には限界があります。そこを補うのが症例報告です。“どこかで見たことがある。”ということが、診療の糸口になることは決して珍しいことではありません。また、論文にするには症例数が少なくても、臨床的に有用な新しい治療法や診断法があれば、積極的に投稿していただければ幸いです。

JC Cases ではオンラインジャーナルの特徴を最大限に活かしたいと考えています。それは速報性と動画像の掲載です。循環器にとって画像診断は重要な位置を占めています。最先端のテクノロジーによる画像を掲載することによって、新たな可能性を読者とともに考えることができます。動画像は診断のみならず治療においても重要です。オンラインの特性を活かして動画像を掲載することにより、より臨場感の溢れる雑誌にしていきたいと考えております。

JC Cases は世界でも珍しいオンラインでかつ症例報告に特化した英文誌です。JC Cases が世界をリードする雑誌として発展していけるかどうかは JCC 会員の皆様の投稿にかかっています。JCC 会員の皆様のご協力を何卒宜しくお願い致します。最後に、Associate Editor そして Reviewer の先生方におかれましては、ご多忙の中ボランティア精神に則り献身的に尽力をいただき、心より御礼申し上げます。